

バネ式アオリ開閉補助装置（セイコーラック・アオリバランサー等）と同じような使い方をされると

カミングラックは破損・故障します

カミングラックはバネ式アオリ開閉補助装置と異なり、装置本体がアオリと一体となってリンク機構を構成しています。このリンク機構に組み込まれた油圧シリンダを伸縮させることで、アオリを自動的に開閉することができます。

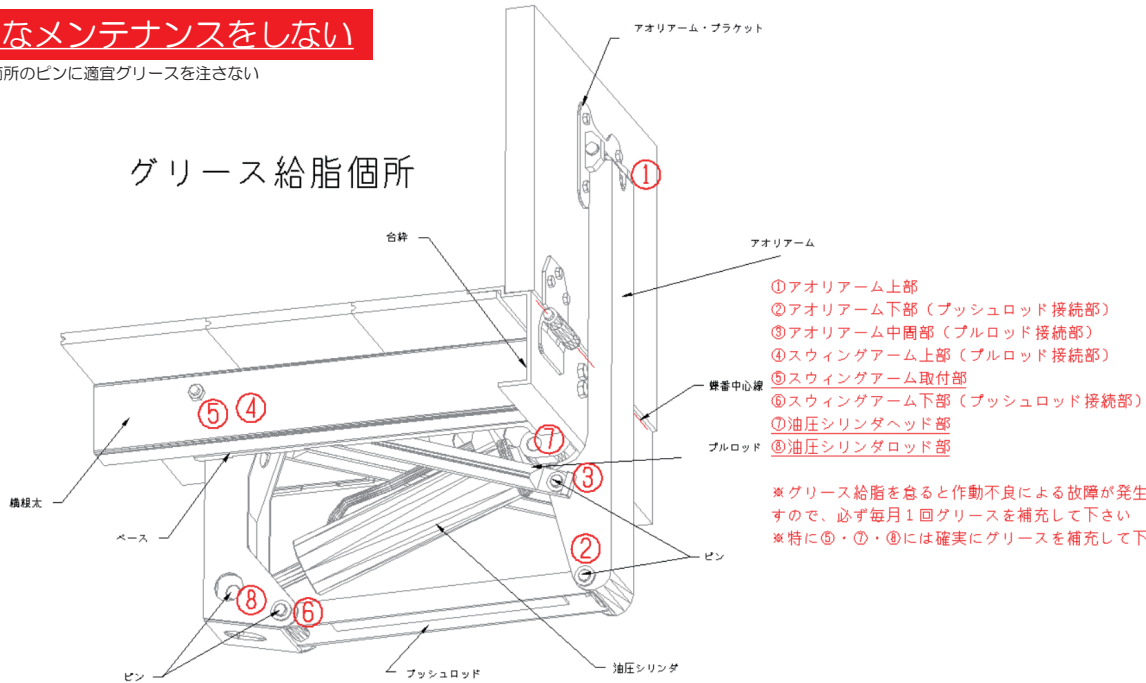
このため、作動中・停止中に問わず、アオリに過度の負荷がかかりますと、カミングラックのリンク機構にも過度の負荷がかかることとなり、結果的にカミングラックの一部が破損・故障することになります。

カミングラックの性能を維持し、安全な荷役作業を行っていただくため、以下のようなご使用は絶対にお止め下さい。

1. 適切なメンテナンスをしない

8箇所のピンに適宜グリースを注さない

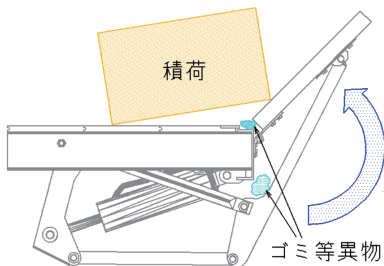
グリース給脂箇所



※グリース給脂を怠ると作動不良による故障が発生しますので、必ず毎月1回グリースを補充して下さい
※特に⑤・⑦・⑧には確実にグリースを補充して下さい

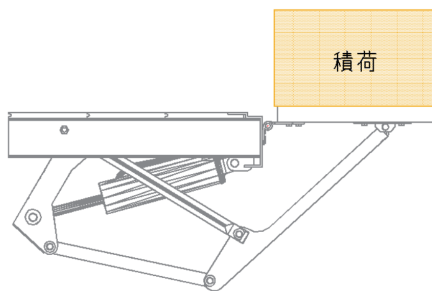
2. 無理やりアオリを開閉する

ゴミ等異物の噛み込みや積荷のはみ出しを無理やり押し込むアオリが地面等に引っ掛かった状態から強引に上げようとする



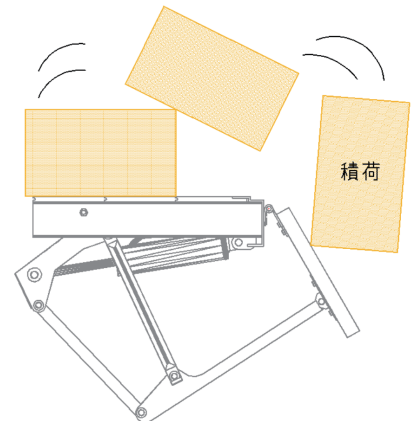
3. アオリに積荷を載せる

アオリの開閉途中で積荷等を載せる



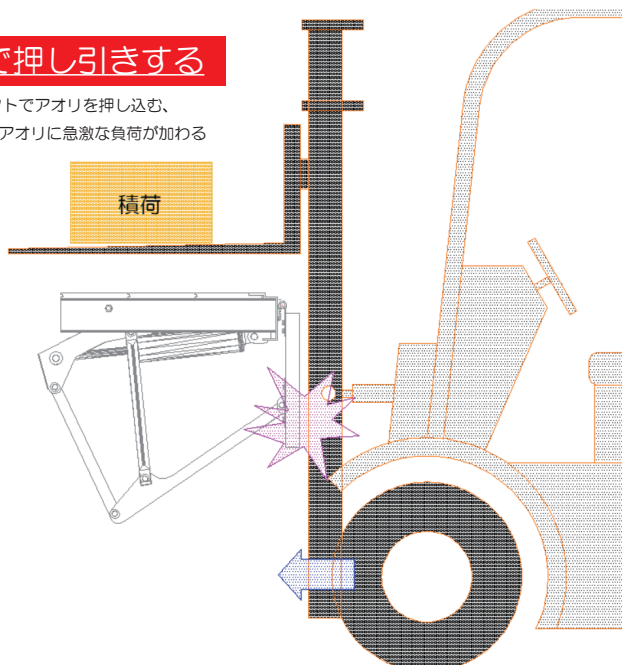
4. アオリに荷崩れさせる

荷崩れ等によりアオリに急激な負荷が加わる



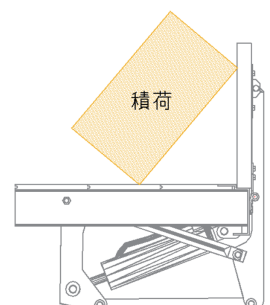
5. リフト等で押し引きする

荷役作業時に積荷やリフトでアオリを押し込む、引っ張る、ぶつかることで、アオリに急激な負荷が加わる



6. 手動式ロックをしない

アオリに負荷がかかりやすい状態で走行する



カミングラックが破損・故障したときの 緊急時の対応方法

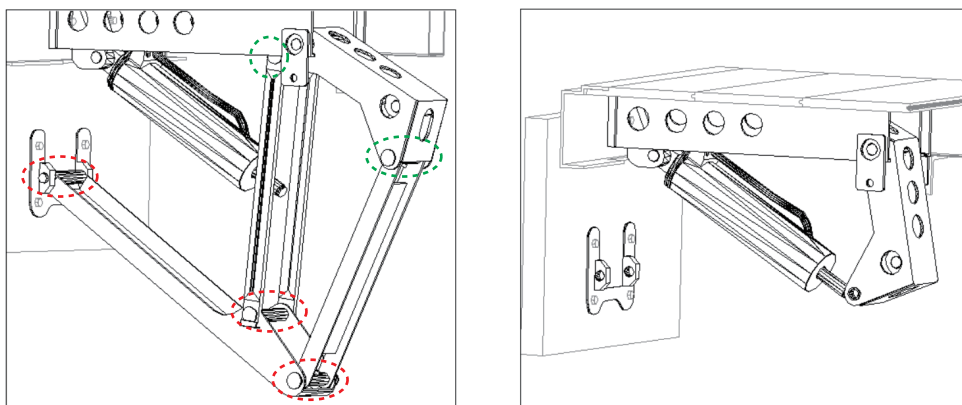
ボタン操作をしてもアオリが上がらなくなった場合には、カミングラックのリンク機構の何処かが破損・故障している可能性があります。この場合、フォークリフト等でそのまま無理にアオリを上げようとすると、プッシュロッド、プルロッド、アオリアーム、取付ピン等他箇所まで変形・破損させてしまうことになります。

カミングラックが破損・故障したときには、必ず以下のような緊急時の対応を行って下さい。

1. アオリを一旦下ろして、故障箇所を確認する

2. リンク機構をフリーな状態にする（表面図を参照）

- ・アオリアーム取付けピン3箇所を抜いて、アオリアームを取り外して下さい（赤○）。
- ・可能な場合は、プッシュロッド、プルロッドもピンを抜いて取り外して下さい（緑○）。



3. リフト等で補助しながら、アオリを上げて確実にロックする

【2箇所とも破損・故障した場合】

- ・両方のリンク機構がフリーとなっていることを確認した上で、フォークリフト等でアオリを持ち上げて下さい。
- ・アオリが元の位置まで閉まったら、アオリのロックを確実に行って下さい。

【1箇所のみ破損・故障した場合】通常はこちらの場合が大半です

- ・破損・故障した方のリンク機構がフリーとなっていることを確認した上で、ボタン操作を行いアオリを開けて下さい（1箇所のみでも一時的なアオリの開閉は可能な場合があります）。
- ・但し、この場合も安全のためにアオリを上げる際には、通常のボタン操作と一緒に（油圧回路を開いた状態にして）、フォークリフト等で支えながらアオリを上げて下さい。
- ・アオリが元の位置まで閉まったら、アオリのロックを確実に行って下さい。

4. 故障したパーツ等を仮止めしてから、車両を移動させる

- ・確実にアオリのロックを行った後に、故障して垂れ下がっているパーツ（シリンダ・プッシュロッド・プルロッド等）を紐や結束バンドで縛って吊り上げ、ベース側に仮止めして下さい。
- ・走行中に故障したパーツが他箇所や外部に干渉しないことを確認できたら、車両を移動させ、修理工場にご入庫下さい。

